

(別紙)

**病院医学教育研究助成成果報告書**

(1) 研究題名

看護師のためのエイズ診療従事者研修アドバンスト・コース

(2) 研究組織等

研究組織の名称

エイズ診療グループ

研究責任者名(所属)

石倉浩人(医師)

共同研究者名(所属)

吉岡みち子 藤田直美 (看護部)

(3) 研究費及び研究費の用途

研究費

66,000円

研究費の用途

受講料 0円 島根県負担

旅費・宿泊費 0円 島根県負担

研修に必要な物品の購入

(4) 目的及び方法、成果の内容

目的

本院は島根県のエイズ拠点病院であり HIV/エイズ患者の看護に関する基礎的知識を深めた看護師がさらに適切な看護が実践でき応用でき、知識を啓蒙できる人材育成を図る。

方法

1) 研修会参加 2名

・看護師のためのエイズ診療従事者研修アドバンスト・コース

主催広島大学病院

・中国・四国ブロック拠点病院

広島大学病院

平成20年12月12日から13日

受講者：花野和美

山本雅子

## 成 果（データ等の図表を入れて2000字程度）

研修会参加者2名は看護師のためのエイズ診療従事者研修基礎コースを終了しており、今回のアドバンスト・コース研修は基礎コースを踏まえたプログラム内容で継続受講した。

研修目的は、HIV/AIDSに関する最新の臨床医学及び社会的背景に関する理解を深める。HIV/AIDS患者のセクシャルヘルスに関する理解を深め、実践に応用できる。HIV/AIDS患者とのコミュニケーションスキルの向上を図る。各施設の状況とケアの経験を共有しAIDS患者に対する看護の知識を深める。今後のAIDS看護を実践する上で、個々の研修生の状況にそくした具体的目標を決める。として、看護師としHIV/AIDS看護に関する知識を深め、適切な看護が実践できるために参加した。

今回の研修はHIV陽性妊婦の分娩への支援、HIV陽性患者の拳児希望への支援等についての実際に関わりを学んだ。

助産師である参加者は、今後いつ遭遇しても慌てることのないように、早急に本院の体制を作る必要性を感じ、周産期スタッフに伝達研修を行った。そして、本院のHIV陽性妊婦・擬陽性妊婦の対応マニュアル作成を提案し進めて行く方向となっている。また、セクシャル面の支援を必要不可欠とする助産師として退院指導時の強化、性感染症で来院する女性への個別支援の強化を図る計画を立てている。そして、外来では産前スクリーニング検査でのHIV検査時に詳しく説明することを強化するなど研修会で学んだことを着実に実践している。研修会参加後より月1回開催のエイズ診療チームカンファレンスにて研修報告をおこない、カンファレンスメンバーとしてカンファレンスに参加し事例を通して継続的な患者・家族への関りへの実績を上げることができている。

島根県のエイズ中核拠点病院には、県内の拠点病院から本院が平成20年4月選定された。中核拠点病院の機能とは、(1) 高度なHIV診療の実施 HIV診療に十分な経験を有する医師を確保するとともに、外来における総合的なHIV診療が可能となる体制や、関係職種からなるチーム医療体制の整備が図られること。HIV感染者に対する入院医療が可能となる体制を整備すること。

全科による診療体制を確保すること。カウンセリングを提供できる体制を整備すること。(2) 必要な施設・設備の整備 患者のプライバシーを守ることが可能な外来診療室を設置すること。病状に応じて、個室への収容が可能であること。

院内感染防止に関する必要な備品を整備すること。その他HIV診療に必要な機器を整備すること。(3) 拠点病院に対する研修事業及び医療情報の提供 県内の拠点病院の医療従事者等に対する各種研修を実施し、エイズ診療にあたる人材の育成を図ること。また、各都道府県内の拠点病院やHIV診療・ケアに関する情報を拠点病院の医療従事者に対して提供すること。(4) 拠点病院等との連携の実施 中核拠点病院は、拠点病院等との連携を進めるため、連絡協議会を設置し、必要な連携

調整を図ること。なお、連絡協議会の構成については、一般医療機関や歯科医療機関との連携が図られるよう委員の選任に配慮すること。が上げられている。

今後も中核拠点病院として組織的体制の確立を図ることが望まれるが、良質かつ適切なH I V医療を提供し、HIV/AIDSに関する知識を持ち適切な看護実践ができる多くの看護師の人材育成が重要である。